

### [4] 結線

結線を間違えると故障の原因となりますので注意してください。

#### 注意

1. 電線端末の芯線を直接手で触れるときは、人体の静電気を除去してください。
2. 半田コテや、電動工具を使用するときは、必ず工具本体を接地してください。
3. 結線用電線は、電気雑音を多く含む動力線と束ねたり、同一配管内に収納しないでください。
4. 出力回路により伝送可能な距離および周波数は変化するので、伝送に異常のないことを確認してください。長距離伝送する場合は、ラインドライバ出力を推奨します。
5. 供給電源の電圧値や極性（+、-）に間違いが無いことを確認してください。間違えると、エンコーダの故障原因となります。エンコーダに供給される電圧は、ロータリエンコーダ端で定格範囲であることを確認してください。
6. 接続は、端子盤による接続、コネクタによる接続など、確実に緩みが発生しない接続方法としてください。
7. 接続点は、外部からの妨害雑音の影響を受けないよう金属箱や金属コネクタなどを使用してください。また、接続点が直接外部に露出する状況は避け、特に結露や水滴が付着しないようにしてください。
8. 結線を延長する場合は、ツイストペア一括シールドケーブルを使用してください。  
電線のツイストペアは、差動出力（Differential Output/ラインドライバ出力等）の場合はVcc-0V, A-Anot, B-Bnot, Z-Znotに、シングルエンド出力（Single Ended Output/電圧、オープンコレクタ、コンプリメンタリ出力等）の場合はVcc-0V, A-0V, B-0V, Z-0Vとしてください。また、延長電線で供給電圧が低下するので、結線用の電線は芯線断面積が大きいものを使用してください。シールド電線は、受信回路端まで配線してください。（中継点ではFGに接続しないでください。）
9. 使用しない出力信号線がある場合、出力信号線端は絶縁処理をしてください。他の信号線や電源、FG線と接触すると、エンコーダの故障原因となります。
10. 本製品側のシールド線は本体に接続されています。ケーブル受信端末側のシールド線は必ずFGに接地してください。
11. 結線後、正しく接続されているか必ず確認してください。信号線の結線を間違えると、機器が暴走する可能性があります。

### [5] 保証

納入後1年以内に発生した設計・製造上による故障に関しては、無償で交換いたします。

保証期間終了後、または誤った取扱や使用に依るものは、実費申し受けます。